

高野山・有田川上流域の持続的農林業システム

～聖地 高野山を支え、平地の少なさを乗り越える自然と生業との融合～

山上の聖地「高野山」を支えるとともに、

平地の少ない有田川上流域の暮らしを発展させた持続的農林業システム

高野地域

落雷による度重なる火災に見舞われた高野山

→高野六木制度の確立

- 本来の植生を利用し、6種の針葉樹を選択的に育成
- 寺院の建築・修繕以外での伐採を禁止
- 必要となる樹のみを択伐
- 苗木の植栽、天然下種更新により森林を更新
- 金剛峯寺山林部+高野山寺領森林組合による組織体制

寺院の建築・修繕用材の永続的自給を可能に

高野六木の森・長伐期施業林

- 有田川の水源を涵養
- 高い農業生物多様性
- 信仰環境

高野山

- 山上の宗教都市としての大きな需要
- 心の拠りどころ

豊作を高野山に祈念・感謝

花園地域

高野山の需要に支えられた
傾斜地での仏花栽培

農業+林業による複合経営

清水地域

畦畔の農地利用による多様な植物の育成・栽培

⇒高野山など周辺地域からの多様な需要への対応を可能に

山 椒

- 畦畔や耕地周辺での栽培が起源
- 古くより 高野山の需要（漢方薬・香辛料）に応える
- 江戸時代には「ぶどう山椒」を発見
- 現在では、日本一の生産量を誇る産地を形成

→ニーズに応える栽培拡大

ぶどう山椒

畦畔で栽培されるヨウゾ